

令和 6 年 5 月 25 日現在

機関番号：99999
研究種目：奨励研究
研究期間：2023～2023
課題番号：23H05072
研究課題名 看図アプローチを活用した定時制高校における英語の授業実践の開発と表現力の育成

研究代表者

江草 千春 (Egusa, Chiharu)

北海道岩見沢東高等学校・高等学校教諭

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 350,000円

研究成果の概要：本研究では、定時制高校生に、ビジュアルテキストを読解するために、「看図アプローチ」の3つの活動である「変換」、「要素関連づけ」、「外挿」を行い、英作文を作成してもらった。そして、その英作文や感想などの記述から看図アプローチの有効性について、考察した。結果は、ビジュアルテキストを用いた2つの授業実践（江草, 2022, 2023a）から、3つの活動で日本語と英語の解答数や英作文の使用語数の増加から表現力の伸びが見られた。そして、楽しく、やりがいがある、想像力が豊かになる、また挑戦したい、という肯定的な感想が述べられていて、看図アプローチの有効性を確認することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

協同学習の1つの手法である「看図アプローチ」を活用した授業実践の研究成果は、平成30年告示の高等学校学習指導要領で重要視されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての授業作りを推進していくものとなっている。ある種の「わかりにくさ」が備わっているビジュアルテキストを様々に解釈したり、表現したりしながら、学習者たちは、個々に思考したり、ペアやグループで協同の学び合いを深めていくことを可能にしている。そして、このアプローチを推進していくことで、学習者の表現力を育成していくことが期待される。

研究分野：英語教育学・第2言語習得研究・応用言語学

キーワード：英語教育 定時制高校 看図アプローチ 協同学習 ライティング 主体的・対話的で深い学び

1. 研究の目的

「主体的・対話的で深い学び」、すなわち、アクティブ・ラーニングが、近年の学習指導において強く求められている。この学習指導において、効果的な協同学習の1つの手法が、「看図アプローチ」である(鹿内, 2016)。このアプローチでは、ビジュアルテキストの読解を授業の中に取り入れられている特徴がある。ビジュアルテキストとは、図・写真・動画・グラフなどのことである。また、このテキストを読み解いていくための処理活動として、「変換」、「要素関連づけ」、「外挿」の3つの活動がある(鹿内, 2015)。

本研究では、様々なビジュアルテキストを用いた定時制高校における英語授業の実践を詳細に報告し、協同学習の1つである看図アプローチの有効性について考察する。

2. 研究成果

本研究は、2022年の7月に定時制課程がある北海道内の高等学校で行われた。4年生の「英語表現」を履修している8名のクラスでの実践であった。「系通し」というビジュアルテキストを用いて4時限配当の授業計画で実践された。1時限目では、看図アプローチの3つの活動のうち、ビジュアルテキスト中に描かれている諸要素を言語化する「変換」を行った。2時限目では、看図アプローチの3つの活動のうち、ビジュアルテキストを構成している諸要素を相互に関連づける「要素関連づけ」を行った。3時限目では、看図アプローチの3つの活動のうち、ビジュアルテキスト中に表現されている内容を超えて、展開について推量したり結果を予測したり、発展的に考えていく「外挿」を行った。4時限目では、「外挿」の活動で作成した英語と日本語をまとめた作品集を配付して鑑賞会を行い、最後に授業の振り返りを行った。

結果については、授業で使用したワークシートの記述データから考察する。まず、2022年7月の授業を体験しての感想では、「また、やりたい」「難しい単語が出てきて、それを使って文章を考えるのは難しかった。しかし、とても勉強になったし、他の人の文章を聞くのは面白かった」「長文の英語が書けるから難しいけど、楽しさがある」「またやりたいと思った。想像を豊かにしてくれるのと、イラストを見てどう思うのか、人それぞれ違ったのを比べて見るのも良いなと思いました」といった肯定的な感想が多かった。

また、2022年7月の実践のデータは、「室内光景」というビジュアルテキストを用いた2022年3月の実践のデータ(江草, 2022)と比較して、どのような変化があったのかについて考察する。両実践は、同じ学習者での授業実践であった。結果は、まず、看図アプローチの3つの活動のうち、ビジュアルテキスト中に描かれている諸要素を言語化する「変換」における「もの」の日本語と英語の解答数については、2022年7月の実践の方が両方とも増加していた。次に、看図アプローチの3つの活動のうち、ビジュアルテキストを構成している諸要素を相互に関連づける「要素関連づけ」における日本語と英語の解答数については、2022年7月の実践の方が両方とも増加していた。最後に、看図アプローチの3つの活動の1つであるビジュアルテキスト中に表現されている内容を超えて、展開について推量したり結果を予測したり、発展的に考えていく活動である「外挿」における2022年3月と2022年7月の実践の比較である。これについては、両実践のワークシートにおける発問が違うため、英作文の使用語数で比較した。結果は、英作文の使用語数と重なりを除いた語数の両方とも2022年3月の実践と比較して、2022年7月の実践の方が増加していた。

このように、「変換」、「要素関連づけ」、「外挿」の活動におけるワークシートから得られた記述データを数量的に示してみたが、どの活動においても2022年7月の実践が2022年3月よりも多いことが分かり、表現力が伸びていることが分かった。

今後は、「系通し」のビジュアルテキストを4年生の実践と同時期に他の学年にも実施したので、その実践研究の分析を進め、同様な結果が得られるか検証する必要がある。また、看図アプローチ協同学習を促進する「ビジュアルテキスト」である「きゅうちゃん」(石田, 2022, 2023; 鮫島・石田, 2023; 鹿内, 2023; 山下, 2023)を用いて英作文を作る実践を行い、表現力に伸びがみられるかに関して、英語教育学や第2言語習得研究で用いられる測定方法を利用して検証する必要がある(江草, 2005)。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 江草千春	4. 巻 18
2. 論文標題 看図アプローチを活用した定時制高校4年生における英作文の授業実践：2022年3月の実践との比較	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 全国看図アプローチ研究会研究誌	6. 最初と最後の頁 35-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 江草千春	4. 巻 19
2. 論文標題 看図アプローチを活用した定時制高校における英作文の授業実践（第3報）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本協同教育学会第19回大会要旨集	6. 最初と最後の頁 83-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 江草千春	4. 巻 22
2. 論文標題 看図アプローチ協同学習を活用したライティングの実践 - 大学でのワークショップからの考察 -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 全国看図アプローチ研究会研究誌	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 江草千春
2. 発表標題 看図アプローチを活用した定時制高校における英作文の授業実践（第3報）
3. 学会等名 日本協同教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 江草千春
2. 発表標題 看圖アプローチの3つの活動(変換・要素関連づけ・外挿)を体験してみよう!
3. 学会等名 天理大学英語教育研究会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織(研究協力者)

氏名	ローマ字氏名
----	--------